



笑顔とやる気いっぱいの中 生徒自らが常に鍛え続ける中

七中だより



第 1 号 中野区立第七中学校《学校だより》

令和2年4月6日
TEL 03-3389-4171

「令和2年度 素敵にスタートを切るために」

校長 池田 俊一

第七中学校長の池田俊一です。本年度、第七中学校はクラスの数を2クラス増やし賑やかにスタートいたします。今までにもまして変わらぬご指導ご鞭撻をいただけますようお願いいたします

令和2年度が始まりました。いつもの年ですと笑顔と歡喜にあふれる春の風物詩「始業式のクラス発表」も、希望と不安が混ざった眼差しの新入生を迎える「入学式」も今年は様相を大きく変えたものとなりました。どの学年にとっても大切な春のスタートが清々しく切れないうことは、無念なことですが、ここは忍んでいく時と心得、力をためましょう。

さて昨年度の修了式でも話しましたが、私たちの周りはいつでも良いことと悪いことが隣り合わせに存在しているものです。諺(ことわざ)に「禍福は糾える縄のごとし」というものがありますが、現在のように日を追うごとに新型コロナウイルスの感染者数が上昇し、世界的な蔓延をみせています、そんななか「禍福」をどのように捉えるかが大切であると改めて伝えたいのです。世界の誰にとってもこのような対応は初めてのことで、先が見えない不安は大いにあります。しかし、不安に大切な自分の時間を食われてしまうことほど愚かしいことはありません。私は自分を励ます意味で「深刻になるな！真剣になれ！」という言葉を事あるごとに思い出します。嘆くことはあっていいし弱音を吐くことは心の落ち着きを取り戻す為に必要です。しかしそれだけでは矢印が上向くことはありません。今すべきことは何かを真剣に考え、実行に移すことが何よりも大切では

ありませんか。一人ひとりに問うてみます。感染への対策は、自分にできることを丁寧にやっていますか？今回の臨時休業で生まれた自由に使える時間を本当に有効に使っていますか？このウイルスへの対策は、まだまだ先が見えない状況です。もしかしたら終息まで何ヶ月もかかるかもしれません。それでもへこたれずにぜひ真剣に考えてください。

そして、もう一つ気になることがあります。いつもいっつも言っている私の気持ち「優しい気持ちは遠くから、優しい気持ちは一人でも」についてです。周りの人を優しくできるのは、まさに今であり、絶対に必要です。新入生の皆さんには、ピンとこないかもしれませんが、心に優しさをもって暮らしてくださいねということです。外出の自粛が言われている現在は、一番近くで一番大切な存在である家族と長い時間過ごせるチャンスが来ています。しかし、近い関係であるために、外に出られないいらいや、ちょっとした言葉の端っこをとらえてささくれだった気持ちになるものです。こんな時だからこそ家族をもっと大切にしましょう。お互いの気持ち察しあいながら優しく生活しましょう。七中生のみんなは、できる事をしっかりとやってください。各家庭にはそれぞれの役割があるものです。またこの際自分の役割を作ることもよいでしょう。それは、きっとあなたたちを大きく成長させてくれる中心として育っていくものになります。頑張ってください。

